

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400129		
法人名	医療法人 宏友会		
事業所名	グループホーム乙川 一丁目		
所在地	半田市飯森町53-1		
自己評価作成日	令和4年10月1日	評価結果市町村受理日	令和5年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「第二の家」となるよう、利用者様がいつでもご自身のペースで過ごせる支援を目指しています。
畑があるので農業経験のある利用者様にアドバイスをいただきながら季節の野菜を栽培し、役割がある喜び、やりがいを感じていただけるよう努めています。
利用者様それぞれのできることや好きなことに取り組んでいただけるよう職員同士の情報共有も積極的に行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2392400129-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年11月13日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体が医療機関であることで、医療面での定期的及び随時の連携が行われているが、当ホームの近隣の医療機関との連携も行われており、利用者の健康状態に合わせた柔軟な対応にもつながっている。利用者の中には、身体状態の重い方もホームでの生活を継続しており、食事形態の対応をはじめ、職員間で利用者一人ひとりに合わせた支援が行われている。運営推進会議については、人数を限定して実施しており、会議の取り組みが途切れないような取り組みが行われている。また、当ホームの新たな取り組みとして、共用型デイサービスが行われており、地域で暮らしている利用者がホームに通いながら在宅での生活を継続し、利用者や家族の様々な状況に合わせてグループホームに移行することができることで、利用者や家族の安心感にもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の申し送りで理念を基にしたケアに努めている 実践につなげるよう心がけている	運営法人の基本理念をホームの支援の基本に考えながら、ホーム独自の理念がつけられている。運営法人の理念とホーム独自の理念を交互に唱和する機会をつくり、職員間での理念の共有につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	管理者が行っている	感染症問題があり、地域の方がボランティアとして訪問する予定が中止になる等の影響が続いているが、徐々に交流の機会をつくっている。また、新たに共用型デイサービスの運営を開始しており、地域の方がホームを利用する機会にもつながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者が行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在はコロナのため中止している	会議については、人数を限定して実施することで会議を継続している。職員間でホームの運営状況等の確認を行い、市担当部署等の会議の関係者に報告することで、ホームへの理解を深めてもらう機会につなげている。	会議の内容について、市担当部署以外の方にも報告してホームの現状や取り組みを知ってもらい、通常の会議の再開につながるような取り組みにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者が行っている	市担当部署とは、毎月のホームの運営状況の報告を行うことで、情報交換が行われている。市担当部署との交流は、主に運営法人の関連事業所を通じて行われているが、当ホームでも市内の介護事業所等が集まる連絡会等に参加する機会をつくっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠については離設リスクのある利用者がみえるため行っている	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、両ユニットが平面で開放されていることもあり、職員間で利用者の見守りが行われている。また、運営法人を通じた身体拘束に関する委員会の実施や言葉による拘束等、職員への注意喚起等も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	入浴時、排泄時に身体の確認を行っている 内出血等外傷があれば管理者へ報告している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会があれば参加したい 自己にて勉強している 学ぶ機会が遠のいている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族から意見や要望があった場合は管理者へ伝えている 申し送りで聞いている	現状、家族との交流が困難な状況が続いているが、例年はホームの行事を通じた家族との交流の機会がつけられている。家族からの要望等については、管理者が対応し、運営法人に報告している。また、毎月のホーム便りの作成も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティングで意見をしている 面談で要望を伝えている ミーティングで情報共有している	毎月の職員会議や日常的な職員間での情報交換の機会をつくり、職員からの意見等を運営法人にも報告し、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、管理者による定期的及び随時の面談の機会をつくり、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	希望の休みをきいてもらっている 希望休みを取ることができている 管理者に相談し考慮してもらっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナのため開催されていない 法人内の研修は皆無 自分の意思で受けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市の開催する研修に参加するようにしている ネットワーク作りは難しい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	コミュニケーションを多くとり本人様が何を求めているのか？理解し対応できるよう努めている 会話の中で要望を聞くようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	安心していただけりよう心がけている 会話する機会がある時はなるべくコミュニケーションをとるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	市施設でできるサービスを伝え望まれている支援ができるか考えている 管理者が行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	自立支援を目指し待つ介護の実践 利用者様それぞれに合わせた自立支援を目指している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人様のことで相談したいことがある時はキーパーソンに話をして解決できるようにしている 毎月本人様の様子を伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナで面会ができていない 電話で話ができる機会をつくっている	現状、外部の方との交流が中断しているが、同一敷地内に医療機関と接骨院が開設されていることもあり、利用者の入居前からの方がホームに訪問する機会にもつながっている。家族との外出についても医療機関への受診等、限られた範囲で継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションやお手伝いを通じて交流の機会をつくっている 気の合う方と席を近くにしている レベルに差があるため難しい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	管理者が行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今までの本人様の暮らしに近づけるようにしている スタッフ間で話し合い把握に努めている コミュニケーションを図り支援を伺う	職員間で利用者を担当しながら、利用者や家族からの意向等の把握につなげている。また、職員間で業務日誌等も活用しながら情報の共有を行い、カンファレンスの実施と合わせて、利用者や家族の意向等を日常の支援に反映する取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	基本情報から収集し把握している 分からないことは管理者に聞いている 生活歴の振り返りをしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	心身状態での気付きがある時は記録し管理者へ報告している 毎日個別に記録をとっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的にモニタリングをしている 現状に沿ったプランができない時は本人様、ご家族と話をする時間を設けている	ライフサポートプランの様式の活用も行いながら6か月での見直しを行い、状態変化等に合わせた対応が行われている。また、記録用紙の見直しを行い、日常生活に関するチェック記録を行いながら3か月でのモニタリングにつなげる取り組みも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎月のミーティングで取り上げ情報共有しケアにつなげている 情報として得たことを実践するようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービスに捉われていない、捉われたくないが、できる事には限度があると感じる サービスの多機能化はできていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域との関りがあまりない 地域資源が活用できていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問診療、訪問看護の活用、必要な時は症状に合わせた病院へ臨時で受診している 家族の同行を求めているが困難なときもある	運営母体が医療機関でもあることで、医療面での定期的及び随時の連携が行われているが、利用者の中には今までのかかりつけ医を継続しており、家族の支援で受診が行われている。また、運営法人関連の訪問看護による支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	主に管理者が行っている 看護師が常駐していない心細さはある コロナのため電話対応が多い		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族に意向を確認するためカンファレンス開催で共通理解を深めている 訪問診療でキーパーソンと医師が今後の方針を話し合うこともある	身体状態の重い方も生活を継続しており、利用者の中には協力医と連携しながらホームで最期を迎えた方もいる。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ね、ホームで支援可能な内容の確が行われており、多くの方がホームでの看取り支援を希望している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全ての職員が行えると思えない 救命講習へ参加したい マニュアルがあっても動けない職員が多い		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回避難訓練をしている 訓練の中で反省や振り返りをしている	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。地域の方との協力関係が行われていないが、近隣に運営法人の関連事業所が開設されている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	当ホームから徒歩で移動できる場所に運営法人の関連事業所が開設されているが、現状、特に交流等は行われていない。災害に関する連携にもつながるため、可能な範囲でも交流が深まることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を尊重した言葉がけや対応ができていない時がある 礼儀正しい言葉遣いに心がけている	基本理念でもある「職員心得三カ条」には、利用者への対応や姿勢が掲げられており、日常的に職員間で理念を振り返ることで、職員の意識向上につなげている。また、管理者からも職員への注意喚起等が行われており、接遇に関する研修も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人ひとりを大切に自己決定を尊重したいが職員都合になることが多い 自己決定できる方には働きかけるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員都合になっていることが多い		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	整容は毎朝行ってもらえるよう支援している 出張理容を利用している 身だしなみに気をつけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る利用者様が少ない 片づけは出来ないため、おしぼり作りやお盆拭きをお願いしている	食事については、外部業者から提供しているが、ご飯と汁物はホーム内で調理している。外部業者と連携しながらミキサー食等の提供が行われており、身体状態に合わせた食事形態の対応につなげている。また、季節等に合わせた食事の提供も行われている。	現状、利用者が食事作り等に参加する機会が少ない状況でもあるため、利用者の楽しみにもつながるおやつ作り等の取り組みが増えることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	摂取量が不足している方には補助食品やジュース、ゼリーなど対応している 個人に合わせた食事形態での提供		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後行っている 行えないところの介助をさせていただく 拒否の強い方は訪問歯科も利用し口腔内の確認をしてもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	定時誘導している 介助を必要とする利用者様が増えている トイレで排泄できるよう支援している	利用者全員の排泄記録を残し、日常的にも申し送り等を通じて職員間で情報を共有し、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。トイレでの排泄を基本に声かけ等が行われている他にも訪問看護と連携した排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	牛乳、ヨーグルト、便秘薬で調整している 排便状況の確認を毎日行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	職員が時間や順番を決めてしまうことが多い 本人様のタイミングに合わせた入浴は困難	毎日の入浴の準備を行いながら、週2～3回の入浴ができるように支援が行われている。入浴を拒む方も職員間で声かけを工夫しながら定期的な入浴につなげている。また、浴室に特殊浴槽が設置されていることで、身体状態の重い方の入浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中はリビングのベッドで休まれる方もいる 好きな時間に休んでいただいている 空調にも配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報を見るようにしている 薬の変更があった場合は様子を記録している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	月に一度季節に合った行事を開催している 洗濯たたみ、お盆拭きなど役割をもってみえる方もいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナのため外出できていない	現状、利用者の外出が困難な状況が続いているが、季節や天候等にも合わせてホームの近隣を散歩する等、可能な範囲で外出が行われている。医療機関への受診等を通じた外出は行われているが、外出行事等は困難な状況が続いている。	感染症問題が長期化し、利用者の外出が限られた範囲となっているが、今後の状況をみながら利用者の外出が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理者が行っている 希望により代行で購入する場合もある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば電話している ご家族からも電話で話したいと要望あり、かかってくることもある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに作品作りをし、季節を感じていただけのようにしている。季節の話もするようになっている。 共有スペースが清潔であるよう配慮している	ホーム内は広く、リビングの窓も大きいこともあり、利用者が日中の時間を明るい雰囲気でも過ごすことができる生活環境がつけられている。また、リビング側の敷地に遊歩道がつけられており、日常的に季節の変化を楽しむことができることも当ホームの特徴でもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ひとりの時間も大切にしていきたいので、いつでも居室へ行けるようになっている 自由に過ごしていただけるよう努めている 気の合う方同士で席の配慮をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた物、写真、誕生日カードなど置いている 自宅より使い慣れた物を持参されている	居室内に収納タンスが設置されていることで、家具類の持ち込みが行われていない方もいるが、利用者の中には使い慣れた家具類を持ち込んでいる方もいる。また、自身の作品等を飾る等、利用者や家族の意向等にも合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室前の表札、トイレの表示でわかるようにしている		